

## エジプト マンダリンシーズンの立ち上がりが鈍い

[FreshPlaza 2025年11月19日](#)

エジプトのシトラスアグロ社のマフムード・エサウィ氏によると、エジプトの柑橘類出荷シーズンの開始に当たり、輸出業者が需要に不安を抱いていることが注目されている。エジプトのマンダリン生産量は、表年と裏年の周期的なパターンに従っている。同氏は、今シーズンの予想生産量は前シーズンよりもかなり多く、大玉が多い傾向があるとして、安定した生産量の確保により、昨シーズンよりも価格が下がるだろうと付言する。

エジプトの輸出業者達は依然としてロシアからの需要を見込んでいる。エサウィ氏は、「ロシアはマンダリンの主要市場であり、今シーズンも減速が繰り返すことを懸念している。昨シーズンは価格が高かったため、ロシアへの輸出が大幅に鈍化した。市場の減速は今シーズンの開始時点まで続いている」と話す。

昨2024/25年度シーズンのエジプト産マンダリンの総輸出量は24万5,764トンで、前のシーズンの30万7,946トンを下回った。そのうち前年度の13万6,023トンより少ない11万4,700トンがロシアへ輸出された。

同氏は、「今年はエジプトの柑橘類が不足することはないと念を押したい。オレンジにも、ましてマンダリンにも不足はない。価格は昨シーズンよりも低くなる見込みであり、ロシアをはじめとして需要が低価格に追随することを期待している」と付け加えた。

他の関係者の一致した見解では、エジプトの輸出業者はクリスティーナ、バーモント等の早生のエジプト産マンダリン品種にはあまり関心を示していない。同じ情報筋は、シーズンがもっと進んでから、エジプト産マンダリンの最盛期である2月頃に需要の改善を予想している。

執筆者：ユーネス・ベンサイド（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

## スペイン バレンシア州のカキは雹害で再び減少

[FreshPlaza 2025年11月20日](#)

バレンシア州ではカキの収穫の真っ最中であるが、11月17日の午後に予期せぬ雹を伴う嵐に見舞われた。この嵐は、スペインの主要なカキ産地である同州リベラルタ郡のカルレット、マッサラベス、アルクーディアの各町村等に影響を及ぼした。カルレット町のリベルカンプ協同組合のラファエル・コスメ事務局長は、「収穫は順調ですべて計画どおりに進んでいたが、残りの約50%の収穫が雹によって大きく影響を受けた。被害を受けた農場では40～60%の損害が発生した」と述べた。

スペインカキ協会のパスクアル・プラッツ会長は、残りの収穫の約20%が雹によって損傷したと推定しており、「今季は主に悪天候と病害虫の影響で、既にシーズン前半の出荷量が当初予想より20%減少した。市場が停滞していた矢先に再び供給が減少している。今年は生産者が園地で高い買付価格を獲得していたが、それを正当化することは難しい」と述べた。

コスメ氏は「11月前半の2週間は供給が集中し、市場が飽和するため価格が低下する傾向にある。しかし、ここ数日間は出荷量が減少しており、今回の雹により果実の供給がさらに少なくなるため、注文に影響を及ぼすだろう」と語った。同氏は、今回のような嵐による生産量の損失が病虫害と相まって生産コストを押し上げ続けていると指摘し、「カキの生産コストは過去10年間で50%上昇した。新しい病虫害の侵入と増殖により、欧州委員会が認可した農薬の使用回数を大幅に増やさざるを得なかったが、皮肉なことに、それらは従来よりも高価で、しかも効果は低くなっている」と述べた。

リベルカンプ協同組合は、当初予測で5万2千トンの出荷を見込んでおり、その約90%を上部組織であるアネコープを通じて販売し、主に大手小売チェーンに供給している。コスメ氏は、「取引先は出荷シーズンの延長を望んでいるが、我々としては1月の中旬に終了したいと考えている」と述べた。

執筆者：ホエル・ピタルク （翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）